

## 30年目の関東平野西縁丘陵団研の近況

倉川 博 (埼玉支部)

私たちの団研は1990年以来、関東平野西縁部の地史の解明をめざして、下部更新統を調査しています。発足当時は30～40歳代の若手会員が中心でしたが、今や60～80歳代の高齢者団研です。

しかし、ここ2年くらいの間に、調査に若手のメンバーが加わるようになりました。地学ハイキングの参加をきっかけに調査に参加しているFさんは工学部で学ぶ学生ですが、地質が好きで団研の参加とは別にリモート授業の間に一人でフィールドを歩いています。そして地団研にも入会しました。メンバーが勤務する大学・高校の学生や卒業生数名も調査に参加し、卒論テーマの相談に乗ったりしています。また、高校生のOさんは、地層の観察とレポート作成、口頭試問を課す国立大のAO入試にチャレンジ。団研のフィールドで地質の見方・まとめ方を学んで見事合格・進学しました。地団研にも入会し、今後の活躍が楽しみです。

現状では、若手メンバーはフィールド調査に参加する形の参加になっていますが、室内でのまとめ作業や図化、論文執筆に加わることで創造活動の醍醐味を知り、自身の将来の研究テーマも見えてくるものと思います。いろいろな機会に若手に声をかけていきたいと思っています。

30年間でコミュニケーション手段は大きく変わりました。ハガキ・郵便の時代、FAXの併用、

携帯電話やパソコンの普及とメールの活用、携帯メールからLINEでのやりとり…。コロナ禍では露頭観察やサンプルの検討会で、ZOOMなどリモートを活用しました。しかし基本は対面だと思います。

2019年秋からは、台風により入間川沿いに出現した新露頭の日帰り調査を進めてきましたが、2020年3月以降は新型コロナ感染症の広がりや活動が中断していました。6月に学習会を開き、感染に用心しながら10月から調査を再開しました。その成果を入間市博物館紀要に投稿しました。支部巡検や日曜地学ハイキングのコースとしても活用しています。泊まりがけの調査はしばらく先になりそうですが、フィールドの広い空間は都会の人混みよりはるかに安全です。そして気分転換にも最適です。それぞれが自分の健康状態と相談しながら研究を続けていくつもりです。



入間川の川原で新旧まじえて露頭観察



団研メンバーの和やかなひととき